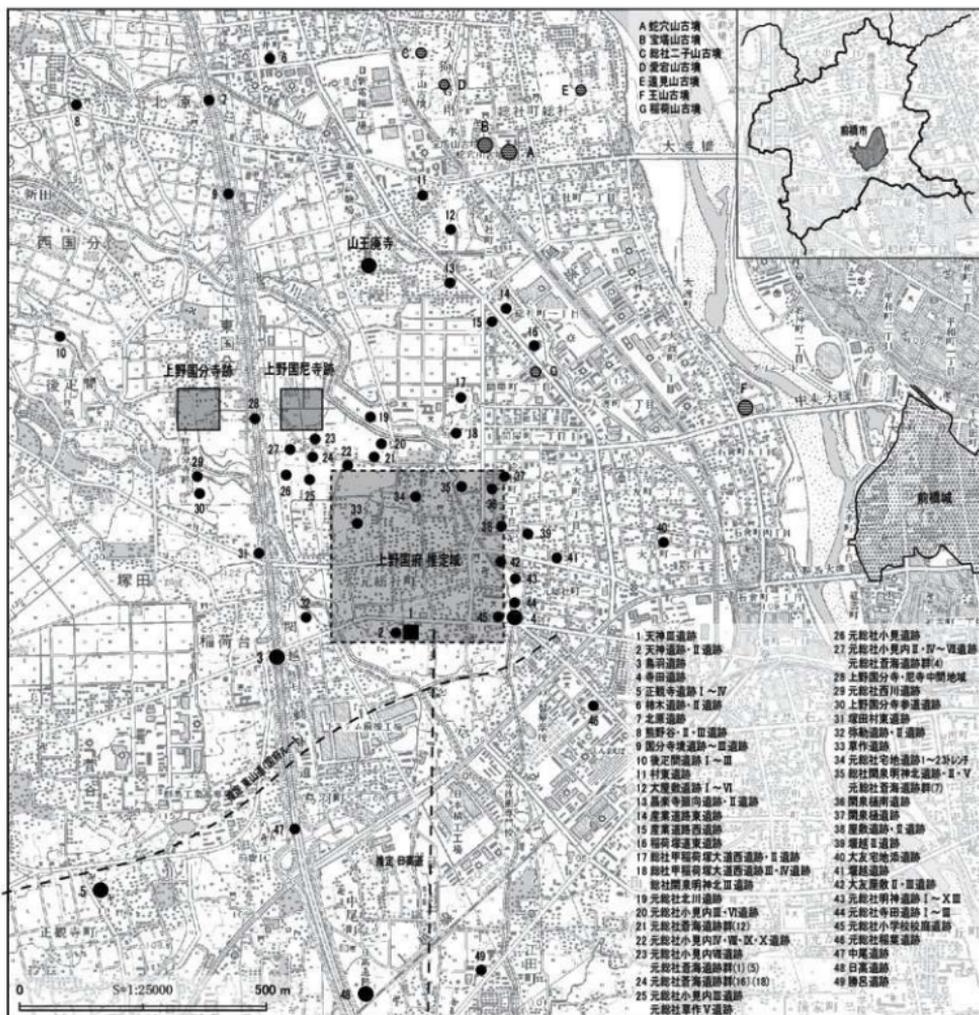


# 前橋市 天神Ⅲ遺跡

レオパレス21小鮎邸新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2008. 08

前橋市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、小淵弘充氏によるレオパレス21新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、小淵弘充氏の費用負担によって行われた。
- 3 発掘調査及び整理作業は、前橋市教育委員会の指導・監督のもと、有限会社歴史考房まほらが実施した。
- 4 発掘調査の事項は以下のとおりである。
  - 遺跡名称 天神II遺跡 調査コード:20A140-1
  - 調査主体者 前橋教育委員会 教育長 中澤 充裕
  - 遺跡所在地 前橋市元総社町字早道825番地1
  - 調査担当者 山下 歳信(前橋市教育委員会)・大嵩崎 泰明(有限会社歴史考房まほら)
  - 調査期間 平成20年6月2日 ～ 平成20年6月15日
  - 調査面積 約172.2㎡
  - 整理期間 平成20年6月16日 ～ 平成20年7月31日
- 5 本書の執筆は「1 調査に至る経緯」を山下が、「4 まとめ」を笠原が、その他を大嵩崎が行い、編集は笠原・大嵩崎が行った。
- 6 測量は田中隆明に、遺物写真撮影は山際哲幸に委託した。
- 7 発掘調査資料、出土遺物は一括して前橋市教育委員会に保管してある。
- 8 発掘調査・整理作業に従事した者は次のとおりである。(五十音順・敬称略)
  - 発掘調査: 五十嵐慶三郎・国定茂・志村久子・森田全彦・山口勝正
  - 整理作業: 栗山佐江子・渡辺由美
- 9 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の諸氏・機関に協力を賜った。(敬称略・五十音順)
  - 佐々木清貴・勢藤力・村田優子・山下工業興・レオパレス21高崎支店

## 凡 例

- 1 本書に使用した地図は、国土地理院発行「数値地図25000(地図画像)宇都宮」(平成15年11月2刷)である。
- 2 本書掲載図の縮尺は各国に示したとおりである。
- 3 掲載図の北方向は座標北方向角を、水準線は標高を示す。座標値は日本測地系IX区を用いた。
- 4 遺物観察表の色調は「標準土色帖」(財団法人日本色彩研究所色票監修)を使用した。

## 目 次

### 例言・凡例・目次

1 調査に至る経緯	2
2 調査経過概要	2
3 遺構・遺物の概要	2
4 まとめ	12
5 群馬県内の八穂鏡出土事例	13
抄 録	裏表紙

### 遺跡周辺図

遺跡全景、H-1～5発掘全景	3
緑軸陶器・灰軸陶器出土状況	3
遺跡全体図・遺構断面図	4
D-2、H-11カマド遺物出土状況	5
H-7・8-11・12、B-1、D-1-2-5発掘全景	6
W-1-7、P-1、道?発掘全景	7

## 掲載遺構図・写真

H-1～5出土遺物	7
H-5～12出土遺物	8
W-2-7、D-2-5、P-1出土遺物	9
遺構外出土遺物、群軸陶器、八穂鏡	9
各遺構出土遺物	10
遺構新田原係図	12
群馬県内の八穂鏡出土遺跡および伝世地	13

## 1 調査に至る経緯

平成20年3月14日新レオパレス21高崎支店より元総社町についての埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。当該地は周辺の埋蔵文化財包蔵地(上野国府跡)に属し、西と北の隣接地点で天神遺跡・天神II遺跡の発掘調査が行われているため、事前に試掘調査を実施し、遺跡の有無、遺構までの深さや内容を確認する必要が生じた。これを受けて平成20年5月23日に試掘調査を行った。その結果、奈良～平安時代の住居跡と土器等も検出したため協議を行った。現状での保存が不可能との事から、記録保存を目的とした発掘調査について調整に入った。平成20年6月にレオパレス21建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。本市教育委員会ではこれを受け、建設物予定地の調査を実施した。なお、現地調査は本市教育委員会指導のもと、㈱歴史考房まほら(調査員 大嵩崎泰明)が担当した。

## 2 調査経過概要(平成20年6月2日～平成20年6月15日)

- 6月2日: 調査着手。重機による表土掘削開始。器材搬入。  
6月4日: 遺構調査開始。W-1検出。  
6月5日: H-1～6検出。  
6月6日: H-7検出。H-1より緑軸陶器出土。  
6月7日: H-8検出。  
6月9日: H-9検出。H-6より円面硯出土。D-2より八穂鏡出土。平断面図作成。遺物出土地点記録。  
6月10日: 調査区東半分について遺構検出面まで、重機により再度掘り下げ。10～12号住居検出。  
6月11日: D-1～5、W-2～4(道路)、B-1検出。  
6月13日: W-5～7検出。全景写真撮影。  
6月14日: ビット検出。平断面図作成。遺物出土地点記録。器材搬入。  
6月15日: 終了検査。調査終了。

## 3 遺構・遺物の概要

本遺跡は推定国府城の南端部に位置し、奈良～平安時代の集落である天神遺跡(1986 前橋市教委)の東側に隣接している。調査の結果、奈良～平安時代の住居跡、中世以降の堀・道?などが確認されたが、特に奈良～平安時代については住居跡が密集した状態にあり、出土遺物も一般的集落ではあまり見られない八穂鏡・緑軸陶器・大型円面硯など特殊なものが認められた。また、調査区西端部に確認された堀は、蒼海城(室町時代築城)の範囲に含まれることから、この蒼海城の堀の一部である可能性がある。

- 遺 構 : 古代の住居12軒、掘立柱建物1棟、道路1条、ビット1基、中世の堀、溝  
遺 物 : 古代の土師器、須恵器(香炉・円面硯)、緑軸陶器、灰軸陶器、布目瓦、八穂鏡、刀子、馬歯



遺跡全景 / 東西5



H-1~5発掘全景 / 東西5



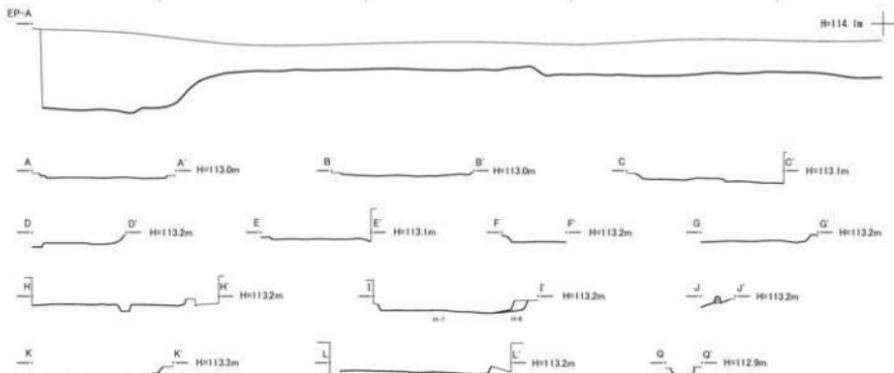
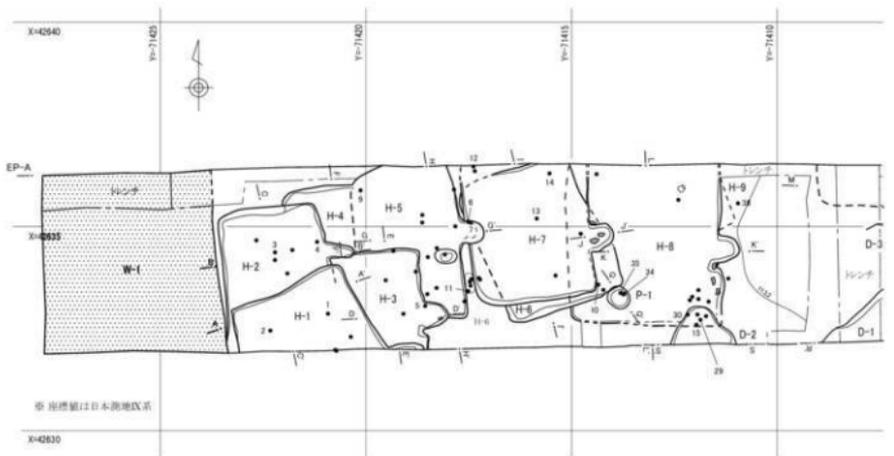
H-1~5発掘全景 / 南北5



H-1 緑釉陶器(1)出土状況 / 北西5-5

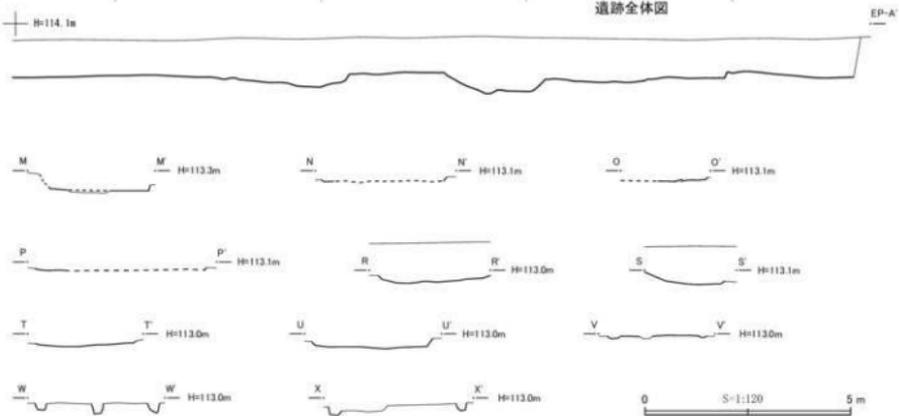
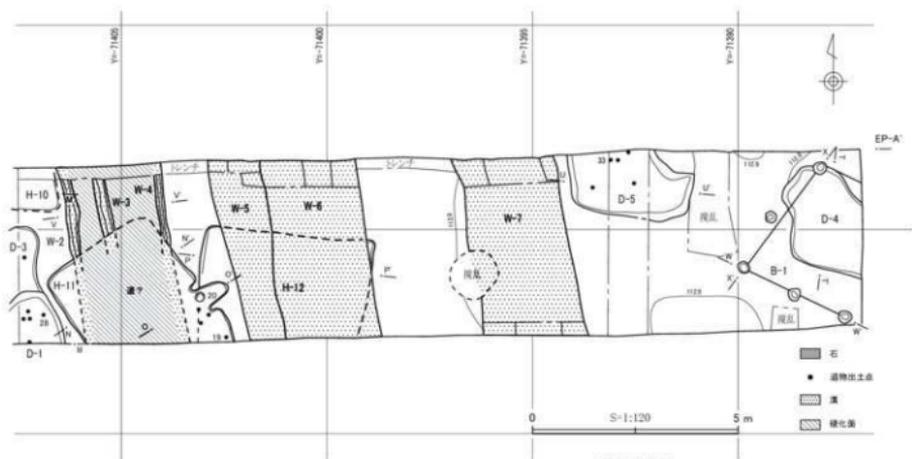


H-8 灰釉陶器出土状況 / 南東5-5

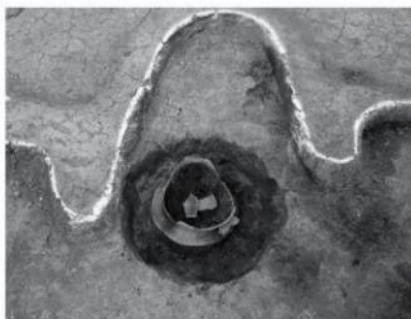


遺構一覧表

遺構名	方量(m)		新旧関係	主な遺物	平面形状	断面形状	主軸方位	カマド	床	柱穴	備考
	長軸(北)	短軸(南)									
H-1	—	3.00	0.08	H-1-H-3	楕円方形?	凹形	N-72°-E	東方マド	x	x	
H-2	3.36	2.58	0.14	W-1(H-2)-H-1	楕円方形	凹形	N-83°-E	東方マド	x	x	
H-3	—	—	0.18	H-1(H-3)-H-5	楕円方形	凹形	N-87°-E	東方マド	○	x	
H-4	—	—	0.18	H-2, H-5-H-4	家蓋蓋	凹形	—	—	x	x	
H-5	3.72	2.54	0.14	H-5(H-4, H-7)	円盤硯、刀子	変な方形	N-85°-E	東方マド	○	x	貯蔵穴、床下土坑
H-6	3.68	2.84	0.26	H-7, H-8(H-6)	—	凹形	N-89°-E	—	x	x	
H-7	—	2.58	0.12	H-5(H-7)-H-8	須磨器小鉢、釘	楕円方形	N-81°-E	東方マド	○	x	
H-8	—	3.70	0.20	H-7(H-8)-H-6, H-9	灰輪陶器蓋、須磨器盤	楕円方形?	N-90°-E	東方マド	○	x	
H-9	—	—	—	H-8(H-9)	—	凹形	—	—	x	x	
H-10	—	2.44	0.16	—	楕円方形?	凹形	N-88°-E	—	x	x	
H-11	—	2.84	0.03	H-12, W-2, 4(H-11)	鉄鍋?	凹形	N-58°-E	東方マド	x	x	
H-12	—	3.84	0.05	W-5, 6(H-12)-H-11	—	楕円方形?	N-87°-E	—	x	x	
B-1	—	—	3.16	D-4(B-1)	長方形	—	N-114°-E	—	—	—	2×3間以上
D-1	2.54	—	0.14	D-1(D-3)	変な楕円形	レンズ形	—	—	—	—	
D-2	1.58	—	0.24	D-2(H-8)	八椀鏡	楕円形?	—	—	—	—	
D-3	—	—	—	D-1(D-3)	変な楕円形	レンズ形	—	—	—	—	
D-4	—	1.88	0.16	D-4(B-1)	馬骨?馬歯	変な方形	—	—	—	—	
D-5	—	2.14	0.12	—	須磨器硯硯	凹形	—	—	—	—	
W-1	—	3.5以上	0.92	W-1(H-2)	遺構	逆台形	N-6°-W	—	—	—	
W-2	—	0.26	0.08	W-3(W-2, 4)-H-11	—	直線, W-3, 4平行	U字形	N-10°-W	—	—	遺跡側溝
W-3	—	0.32	0.08	W-3(W-2, 4)	緑釉陶器	直線, W-2, 4平行	U字形	N-11°-W	—	—	遺跡側溝?
W-4	—	0.18	0.05	W-5(W-2, 4)-H-11	—	直線, W-2, 3平行	U字形	N-9°-W	—	—	遺跡側溝?
W-5	—	0.24	0.06	W-6(W-5)-H-12	馬骨	直線, W-6, 7平行	U字形	N-9°-W	—	—	
W-6	—	2.34	0.36	W-6(W-5)	—	直線, W-5, 7平行	U字形	N-7°-W	—	—	
W-7	—	2.40	0.52	—	—	直線, W-5, 6平行	下に凸形	N-8°-W	—	—	
W-1	0.58	0.50	0.24	H-8(H-1)	円形	凹形	—	—	—	—	



D-2八棱鏡出土状況／西から



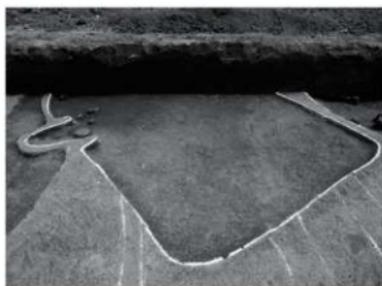
H-11カマド土師器壘(20)出土状況／西から



H-7完掘全景／南西から



H-8完掘全景／南西から



H-11完掘全景／北西から



H-12完掘全景／北西から



B-1完掘全景／南西から



D-1完掘全景／北西から



D-2完掘全景／北西から



D-5完掘全景／南西から



W-1土層断面／南6号



W-7完掘全景／南6号



P-1完掘全景／南6号



P-1遺物出土状況



道？全景／南6号



H-1・2 出土遺物



H-3 出土遺物



H-4・5 出土遺物

H-5~12 出土遺物



H-5 出土遺物



H-6 出土遺物



H-7 出土遺物



H-7 出土遺物



H-8 出土遺物



H-8 出土遺物



H-9-10 出土遺物



H-11-12 出土遺物

W-2~7、D-2~5、P-1 出土遺物  
 這橋外出土遺物、綠釉陶器、八棱鏡



W-2~7 出土遺物



D-2~4 出土遺物



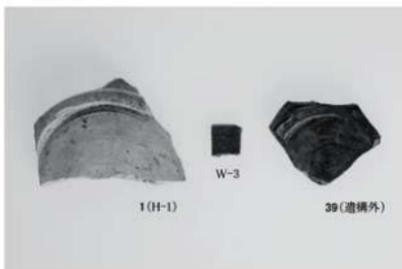
D-4~5, P-1 出土遺物



D-5 出土遺物



這橋外出土遺物



1(H-1)

W-3

39(遺構外)

綠釉陶器



八棱鏡(裏)

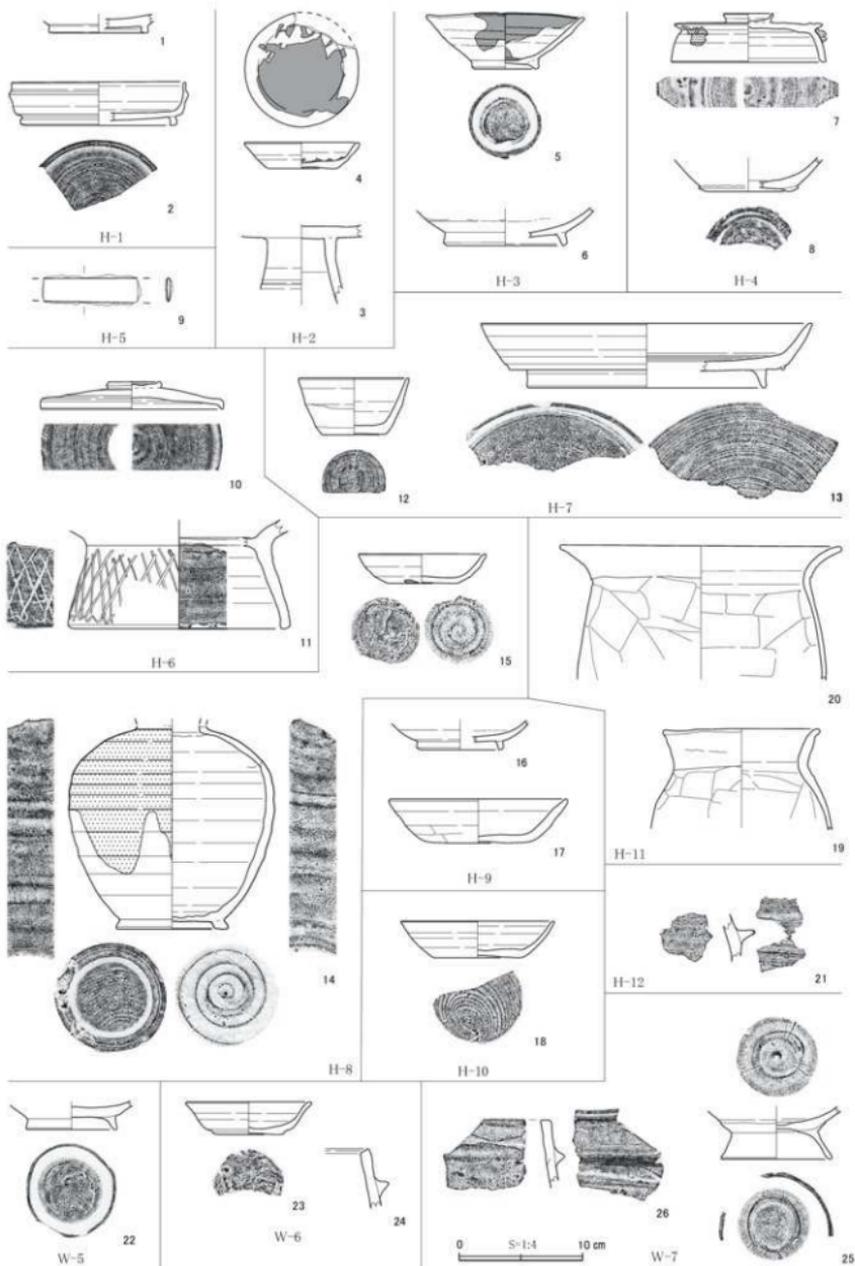


八棱鏡(表)

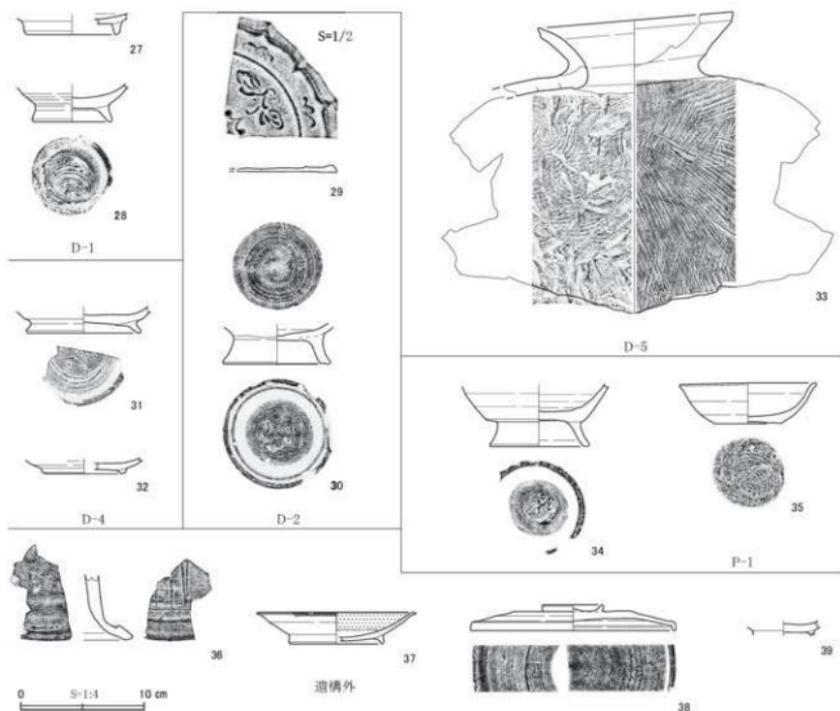


八棱鏡推定復元(約1/2)

※ 日光二荒山神社藏全参考に作図



各遺構出土遺物



各遺構出土遺物

出土遺物観察表

※計測値の( )は推定値、または残存値

No.	出土位置	種類	器種	質量 (cm)			①色調 ②焼成	③胎土		特徴・成形	備考
				口/底径	底/幅	高/厚		④焼存	⑤残存		
1	H-1No.1	緑釉陶器	椀	-	8.0	-	①明黄緑色 ②良好	③白雲母 ④破片	外面:ロコナダ 底部ヘラケズ 内面:ロコナダ	尾張・美濃系	
2	H-1No.2	須色器	香炉	14.0	11.6	3.5	①灰色 ②良好	③長石 ④1/4	外面:ロコナダ 底部ヘラケズ 内面:ロコナダ	脇段高? 神在戸粘片類大 瀬大遺跡類同出土	
3	H-2No.4	須色器	高杯	-	-	-	①灰色 ②良好	③石英、雲母、黒色粒 ④膠漆	外面:ロコナダ 底部ヘラケズ 内面:ロコナダ	脚部中に沈澱二重	
4	H-2No.6	須色器	杯	9.4	5.0	2.1	①褐色 ②良好(土層質)	③石英、雲母、細粒、陶磁管針 ④3/4	外面:ロコナダ 下部無調整 底部回転糸切 内面:ロコナダ	内面全体的に煤付青 灯明土	
5	H-2No.1	須色器	杯	12.8	5.4	4.7	①灰白色 ②良好	③石英、雲母、細粒、黒色粒 ④1/2	外面:ロコナダ 底部回転糸切 内面:ロコナダ	カマド内由上 内外面に煤付着	
6	H-3一區	灰釉陶器	椀	-	10.0	-	①灰白色 ②良好	③長石 ④1/2	外面:ロコナダ 底部ヘラケズ 内面:ロコナダ	灰釉ツケテ 産産産 大塚2号窯式	
7	H-4一區	須色器	茶碗蓋	12.6	-	4.0	①灰色 ②良好	③細粒、黒色粒 ④1/5	外面:ロコナダ 上部ヘラケズ 内面:ロコナダ	外面アスファルト付着?	
8	H-4一區	須色器	椀	-	8.0	-	①灰褐色~褐色 ②不良	③石英、雲母 ④1/4	外面:ロコナダ 底部回転糸切 内面:ロコナダ		
9	H-5No.1	鉄製品	刀子	(7.9)	(2.3)	(0.6)	-	-	重量:23.0		
10	H-6No.5	須色器	杯蓋	14.8	-	2.2	①灰白色 ②良好	③石英、黒色粒 ④1/2	外面:ロコナダ 上部ヘラケズ 内面:ロコナダ	刃先、基部破損	
11	H-6No.4	須色器	円面鏡? 香炉?	-	18.0	-	①灰白色 ②普通	③赤銅、結晶片質 ④普通	外面:ロコナダ へらつきで斜格子文と波刺文 内面:ロコナダ	大型	
12	H-7No.8	須色器	小鉢	9.0	5.2	1.6	①灰白色 ②良好	③チャート、黒色粒 ④1/2	外面:ロコナダ 下部、底部ヘラケズ 内面:ロコナダ		
13	H-7No.3	須色器	盤状杯	26.8	19.4	5.2	①灰白色 ②良好	③細粒、黒色粒 ④1/5	外面:ロコナダ 底部ヘラケズ 内面:ロコナダ 底部後ウキ		
14	H-8No.1	灰釉陶器	盃	-	9.0	-	①灰白色 ②良好	③長石、黒色粒 ④無調整~底部1/3	外面:体蓋上ロコナダ 下部ヘラケズ 底部 回転糸切 内面:ロコナダ 無調整	尾張~三河産?	
15	H-8No.2	須色器	杯	10.3	5.7	2.4	①褐色 ②良好(土層質)	③石英、雲母、細粒、白色粒 ④2/3	外面:ロコナダ 底部回転糸切 内面:ロコナダ	外面下部~底部に煤付着	
16	H-9一區	灰釉陶器	椀	-	7.0	-	①灰白色 ②良好	③なし ④底部1/5	外面:ロコナダ 底部ヘラケズ 内面:ロコナダ		
17	H-9一區	土師器	杯	14.4	8.6	3.6	①褐色 ②良好	③石英、雲母 ④1/6	外面:陶ナダ 下部、底部ヘラケズ 内面:陶ナダ	脇段高 実葉90%式	
18	H-10一區	須色器	杯	12.4	3.0	7.0	①灰色 ②良好	③石英、雲母、陶磁管針 ④1/2	外面:ロコナダ 底部回転糸切 内面:ロコナダ		

No.	出土位置	種類	図様	①土質		②色調		③胎土		特徴・成造形	備考
				口/底径	底径	底径	高さ	④焼成	④焼存		
19	H-11No.5	土器器	甕	12.7	-	-	①黄灰色 ②良好	③雲母、繊維 ④良好	④焼存	外面：口辺積ナデ 体部ヘラケウ 内面：口辺積ナデ 体部ナデ	
20	H-11No.1	土器器	甕	22.8	-	-	①に高い黄褐色 ②良好	③石英、雲母、結晶片質 ④口辺ヘ体部 ⑤石英、雲母、海綿骨針	④焼存	外面：口辺積ナデ 体部ヘラケウ 内面：口辺積ナデ 体部積ナデ	外面口辺、内面全体的に黒付着
21	H-12-1区	須臾器	須臾	-	-	-	①灰褐色 ②普通土(土質劣)	③雲母、雲母、海綿骨針 ④繊維破片	④焼存	外面：口辺積ナデ 内面：口辺積ナデ	
22	W-5-1区	須臾器	甕	-	7.4	-	①灰白色 ②良好	③黒色粒 ④磁器	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部回転糸切り 内面：口辺積ナデ	内面底部に使用痕
23	W-6-1区	須臾器	坏	10.1	5.7	2.7	①に高い黄褐色 ②普通土(土質劣)	③石英、雲母、チャート、繊維 ④良好	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部回転糸切り 内面：口辺積ナデ	
24	W-6-1区	須臾器	須臾	-	-	-	①褐色 ②良好	③石英、雲母、繊維 ④繊維破片2/3	④焼存	外面：口辺積ナデ 内面：口辺積ナデ	
25	W-7-1区	須臾器	甕	-	9.0	-	①灰白色 ②良好	③石英、雲母、繊維、黒色粒 ④磁器	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部回転糸切り 内面：口辺積ナデ	尾高
26	W-7-1区	須臾器	須臾	-	-	-	①褐色 ②良好(土質劣)	③石英、雲母、繊維、結晶片質 ④繊維破片	④焼存	外面：口辺積ナデ 内面：口辺積ナデ	
27	D-1-1区	灰軸陶器	甕	-	7.8	-	①灰白色 ②良好	③長石 ④良好	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部ヘラケウ 内面：口辺積ナデ	内面底部に使用痕 裏面 大塚2号形式
28	D-1No.1	須臾器	甕	-	6.5	-	①に高い黄褐色 ②普通土(土質劣)	③石英、黒色粒 ④4/5	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部回転糸切り 内面：口辺積ナデ	
29	D-2No.1	陶製品	八棱鏡	(11.0)	-	0.3	-	④1/5	④焼存	重量：18.6	
30	D-2No.3	須臾器	甕	-	8.7	-	①黄灰色 ②良好(土質劣)	③石英、雲母、結晶片質 ④磁器	④焼存	外面：口辺積ナデ 内面：口辺積ナデ	内面底部に使用痕
31	D-4-1区	須臾器	甕	-	9.2	-	①灰白色 ②良好	③黒色粒 ④繊維破片	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部回転糸切り 内面：口辺積ナデ	
32	D-4-1区	灰軸陶器	甕	-	6.7	-	①灰白色 ②良好	③長石 ④磁器1/3	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部ヘラケウ 内面：口辺積ナデ	内面底部に使用痕 裏面 虎塚1号形式
33	D-5No.1	須臾器	横瓶	15.8	-	-	①灰色 ②良好	③石英、海綿骨針、黒色粒 ④口辺ヘ体部1/6	④焼存	輪郭み成形(3/4) 外面：口辺積ナデ 体部平行タタキ 内面：口辺積ナデ 上1/4がナデナデ 口辺積ナデ 体部同心円タタキ	
34	P-1No.2	須臾器	甕	-	8.1	-	①褐色 ②普通土(土質劣)	③雲母、繊維 ④良好	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部回転糸切り 内面：口辺積ナデ	尾高
35	P-1No.3	須臾器	坏	11.1	5.5	3.3	①灰黄色 ②良好	③石英、雲母、チャート、繊維 ④光沢	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部回転糸切り 内面：口辺積ナデ	
36	須臾器	須臾器	円面甕	-	-	-	①灰色 ②良好	③白色粒、黒色粒 ④繊維破片	④焼存	外面：口辺積ナデ ヘラによる輪郭 内面：口辺積ナデ	輸入品?
37	須臾器	灰軸陶器	甕	12.9	7.8	2.7	①灰白色 ②良好	③長石 ④良好	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部ヘラケウ 内面：口辺積ナデ	良質 灰軸ツツケ 裏面 大塚2号形式
38	遺構外	須臾器	坪蓋	16.6	-	2.1	①黄褐色 ②良好	③石英、白色粒、黒色粒 ④2/3	④焼存	外面：口辺積ナデ 上部ヘラケウ 内面：口辺積ナデ	
39	遺構外	緑軸陶器	甕	-	(5.0)	-	①オリーブ黄色 ②良好	③石英、石英片質 ④磁器薄	④焼存	外面：口辺積ナデ 底部ヘラケウ 内面：口辺積ナデ	胎土 青緑色

#### 4 まとめ

最後にまとめとして、本遺跡の主体である奈良～平安時代の住居跡を中心に各遺構の新旧関係を整理し、本遺跡の帰属時期について推測することとする。

まず、H-1～9の重複状況を見ると最も新しいのはH-2で、以下「H-2>H-1>H-3>H-5>H-4・H-7>H-8>H-6・H-9」という新旧関係が、H-11・12の重複状況ではH-11>H-12という新旧関係が認められた。さらに土質、溝との重複状況では、D-2>H-8、W-1>H-1、道(W-2・3)>H-11、W-6>W-5>H-12という新旧関係が認められた。いずれも、重複関係にある遺構の平面・土層断面の観察結果から判断した。次に出土遺物から各遺構の帰属時期について推定したいところであったが、出土遺物については出土地点を記録したものが少ないこと、重複が著しい上に遺物から判断される時期に大きな差が認められないことから、出土遺物を確定することすら難しい状況である。なお、各遺構の明確な時期は示し難いが、出土遺物は9世紀末葉から10世紀前半を中心に8世紀中頃から11世紀後半までの年代に帰属するものが認められることから、新旧関係において最も古いH-4・6・9は8世紀代、最も新しいH-2が11世紀後半の年代と推測される。

以下に前述の調査結果を踏まえ、その成果として相対年代を遺構新旧関係図、および遺構相対年代一覧表にまとめた。

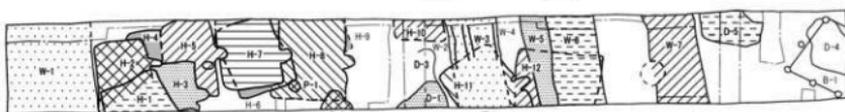
本遺跡は8～11世紀にかけて営まれた集落であるが、緑軸陶器(1)、灰軸陶器(14)・(37)、須臾器(2)・(3)など輸入品と思われるものや、刀子(9)、大形円面甕、または香炉(11)・(36)などの役所に関係すると思われる特殊な遺物が数多く見られ、この時期に見られる一般的集落とは明らかに相違が認められた。狭い範囲の調査であり、隣接する天神遺跡を含めても集落の全体像を把握することはできなかったが、上野国におけるこの地域の特殊性を示唆できたこと、また本県において出土事例が少ない八棱鏡(29)が出土したことは古代社会を考える上で有益、かつ重要な情報を得られたことは大きな成果である。

#### 遺構相対年代一覧表

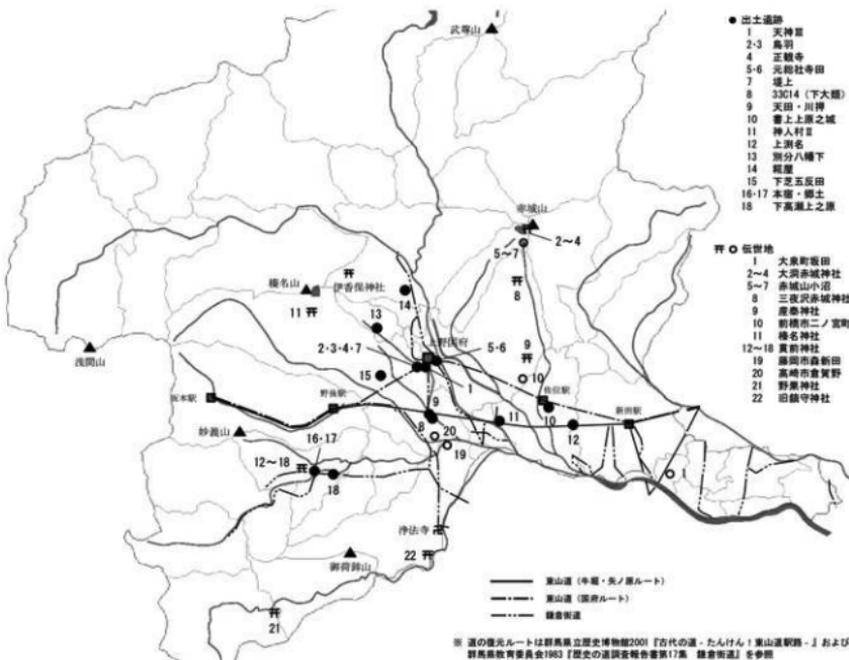
I期	H-4、H-6、H-9
II期	H-8、H-11
III期	H-7
IV期	H-5、H-10、H-12、W-7
V期	H-3、D-1、D-2、W-5
VI期	H-1、D-5、W-6
VII期	H-2
中世以降	W-1、道?

#### 凡例

■ I期	■ V期
▨ II期	▨ VI期
▩ III期	▩ VII期
▪ IV期	▪ 中世以降
▫ V期	※ B-1、D-4は不明







群馬県内の八ヶ嶺出土遺跡及び伝世地

発掘調査報告書抄録

ふりがな	てんじん
書名	天神田遺跡
副書名	レオパレス21小幡邸新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編者名	山下蔵信・大崎崎泰明・笠原仁史
巻次	—
シリーズ名	—
シリーズ番号	—
編集機関	前橋市教育委員会 管理部文化財保護課
所在地	〒371-0018 前橋市三保町二丁目10-2 TEL.027-231-9531
発行年月日	西暦 2008年 8月15日

フリガナ	フリガナ	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	36° 23' 05"	139° 02' 03"	2008.06.02	172.2㎡	アパート建設
天神田遺跡	前橋市元総社町 字早道	10201	20A140-1			2008.06.15		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
天神田遺跡	集落	奈良～平安	住居 独立柱建物 土坑 溝状遺構 ピット	12軒 1根 5基 3点 1基	須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、鉄製品	
		中世	溝状遺構(堀) 溝状遺構	1条 1根	須恵器	
要約	奈良～平安時代の住居跡、中世以降の堀・道?などが確認された。出土遺物に一般的集落ではあまり見られない八ヶ嶺・緑釉陶器・大型内面碗など特殊なものが認められた。					

天神田遺跡	印刷 平成20年 8月12日	朝日印刷工業株式会社
	発行 平成20年 8月15日	前橋市教育委員会文化財保護課 群馬県前橋市三保町2-10-2 027-231-9531

※ 道の埋蔵ルートは群馬県立歴史博物館2001『古代の道 - たんけん! 東山道探跡 -』および群馬県教育委員会1983『歴史の道調査報告書第17集 鎌倉街道』を参照